

## 平成28年度第6回まちづくり懇談会

1. 日 時：平成29年1月31日（火） 午後4時00分～
2. 場 所：市役所9階 第2応接室
3. 団体名：船橋市農業青少年クラブ（通称：4Hクラブ）
4. 次 第
  - （1）会長あいさつ
  - （2）出席者自己紹介
  - （3）市長挨拶
  - （4）懇談
5. テーマ：「4Hクラブの将来と今後の都市農業について」

### 【議題】

- ・ 4Hクラブの将来
  - ・ 都市型農業をするにあたっての課題点
- 

### 【会長あいさつ】

#### ●會田

今年度、4Hクラブの会長を務めさせていただいています、會田浩平です。いつもお世話になっております。貴重なお時間をつくっていただきありがとうございます。ございます。

はじめに、4Hクラブの概要について説明をさせていただきます。

1900年代初頭に、アメリカの農業大学の生徒が行っていたクラブ活動が創設になり、今では全米で会員数が約900万人になっています。4Hの意味は、ハンド（手）、ヘッド（頭）、ハート（心）、ヘルス（健康）という4つのHの頭文字で、国内では農業青少年クラブという名称で活動しており、全国に850クラブ、約1万3,000人の会員がいるそうです。

普段の活動は、自分たちでつくった野菜の即売会や、食育活動も兼ねて幼稚園児の芋掘り体験などを行っています。私たちのクラブも来年度、創立45周年を迎えます。今日来ているメンバーは皆、20代です。

## 【出席者自己紹介】

### ●齋藤（英）

大穴で梨とブドウ、ネギ、ハウレンソウをつくっています。就農して4年目です。

### ●豊田

大穴で梨とブドウをつくっています。就農して5年目になります。

### ●鈴木

法典で梨をつくっています。大学を卒業して5年目になります。

### ●齋藤（雄）

大穴で梨をつくっています。就農して7年目になります。

### ●橋本

古和釜でニンジン、ハウレンソウ、ネギをつくっています。就農してから約2年半です。

### ●會田

金堀でニンジンとカブとハウレンソウをつくっています。就農して5年目です。

### ●石井

八木が谷で梨とブドウと季節野菜をつくっています。就農して7年目です。

### ●福田

市長と同じく東京理科大学物理学科です。途中で出て今年で2年目になり、大根とネギとキャベツとニンジンを主につくっております。

### ●木村

神保町、アンデルセン公園の近くで梨をつくっています。就農して4年目になります。よろしくお願いします。

### ●加納

二和で梨とブドウをつくっています。就農して2年目ですが、いろいろな人と関わっていく中で、船橋のために活動している人は凄く多いと実感して、僕も農業家として、そのような人になればいいなと思っております。

### ●宍倉

前原で小松菜をつくっています。就農して4年目です。予定では、次の4Hの会長をやることになりました。よろしく願いいたします。

### 【市長挨拶】

○市長

今日は、皆さんと顔を合わせる機会はあるのですが、なかなか話ができませんでしたので、すごく楽しみにしていました。

また、こうして、いろいろな形で、それぞれの分野で頑張ってもらっているのを本当に心強く思っています。おかげさまで船橋市は、都市農業のあり方としては、日本の中でも、本当に全国に誇れる、モデル的な世代のつながりや、仕組みができていると思います。

ただ、地域によっては農業の経営環境も、本当に厳しい部分など、問題もありますけれども、今日はいろいろな話をする中で、また次につなげていければと思っています。

### 【懇談】

●宍倉

それでは、早速、懇談に移らせていただきます。テーマは「4Hクラブの将来と今後の都市農業について」ですが、（メンバーの中に）我こそはと何か言いたい方いらっしゃいますか。

もしくは、市長から今日はこんな話がしたいというのがありましたらお願いします。

○市長

こちらから質問していいですか。

実際に就農してみて、初めのころと今の感じはどうですか。やりがいという言いにくくなるので、何かやってみてどうですか。

●齋藤（英）

小さいころから梨の手伝えるところは手伝っていたので、やってみて、こんなもんかなという感じで、別に苦はないですね。

●橋本

以前は勤め人だったので、いざ就農してみると朝が早いときもあるので、結構大変だなと思いました。

○市長

なるほど。親の大変さがわかってきたんじゃないかな。

この中で勤めた経験のある人はどのくらいいますか？（2人挙手）

なるほど。じゃあ木村さんはどうですか、やってみて。

●木村

やっぱり思っていた以上に難しいという感じですね。梨の技術というか、育てるにあたって、親にいろいろと聞いて、怒られて、覚えて、みたいにやっています。自分が主になったときスピードとかも問われてきたりするので、親に少しでも早く追いつけるようにしたいという気持ちもあります。

○市長

鈴木さんはどうですか。女性で梨をやっている人は多くないのではないですか。

●鈴木

そうですね。知り合いではなかなかいないですけど、こういう会に入って、仲間が増えると楽しいですね。やりがいがあります。

○市長

今、野菜をやっている人はどのくらいいますか？（半分挙手）

直売をやっている人は？（半分挙手）

子供のころに手伝った経験はありますか？（多数挙手）

テーマとして4Hクラブの将来となっていますが、船橋で実際に農業をやり始めてどうですか。

●齋藤（英）

親がやっているのを見ていた頃より担い手が少なく感じています。

パートさんの雇用とかでも大変だなというのがあって、そういうところをシステム的につくってもらえればいいですね。

●豊田

船橋市はこういう輪とかがあって、農業で成長していく分にはいい環境だなと思っています。梨のつくり方にしても、いろいろな流派というか、つくり方があるそれをみんなで隠すのではなく、勉強会などでざっくばらんに話したりして、お互いを高め合っていけるので若い人がいるという状況は非常にいいことだと思います。

○市長

実際に野菜をやっている気候変動とか、いろいろ影響されやすいんじゃないですか。

●會田

覚えても、覚えることが次から次へとやってくるというイメージはすごくあります。

あとは子供のころ、手伝っていたころよりも作業全般で時間の流れがどんどん早くなっています。昔は、家族で収穫なども手作業でやって、その後にお茶する時間があるなど時間の流れがゆっくりでした。

近年はもうお茶する暇もないくらい忙しい時期もあって、本当にせわしく作業していると感じています。

でも、自分の農地の周りは畑だらけで周りの人に気を使って仕事をするという事はほとんどないので、そういう面ではまだやりやすいなというのがあります。

●宍倉

周りに気を使ってという面で言うと四方を人に囲まれているので気は使いますけれど、就農した当初はもっと周りの人と仲良くできるかなと思いながらやっていますが、今でもうまくいっていない面があるかと思っています。

もうちょっとうまくやればいいのですが…。

○市長

宅地化が進んでいる地域では経営していくのも、周りの環境とかで影響されやすいと思いますが、どうですか。

●宍倉

環境としては確かに日陰が増えるとか、そういった面ではありますけど。

それでもうまくやっている人もいるし、できない人はやめていっちゃうし、うまくやっている人をお手本にやっっていけばできるのかなと思っています。

○市長

福田さんはどうですか。

●福田

始めたころは、規模をどんどん拡大して、でっかくしたいと思ったのですが、畑が空いていないのと、あとはどうしても住宅に周りを囲まれているので、たい肥や薬をまいたりするときにやっぱりクレームというか、街の人とのつき合いがあります。

だから船橋で求めるのは、拡大するのではなく、おそらく新しい形の農業とこのがあると思うので僕はそういうのを目指していければと思っています。

○市長

石井さんのところは梨と野菜と両方やっているんですか。

●石井

はい。直売所で売ったりスーパーに卸したりしています。

スーパーに卸すのは少力で主に直売所で売るといふ感じですね。

○市長

加納さんはどうですか。

●加納

はい、今のところお客さんもついています。

○市長

わかりました。

さっきの原点に戻って4Hクラブでやっている楽しさを聞かせてください。

●加納

2年目ですが今やっていることもすごいみんな頑張っているんですけど、もうちょっと若々しいことがしたい。

「具体的に。」と言われるとないですが、若い僕らでしかできないようなことを4Hでやっっていけたらなと、同級生の齋藤君や福田君と話したりしているときに思っていたりもしていますが。

●福田

例えば、船橋でゲストハウスを農業とコラボしてやってみたいです。ただ、船橋は空いている古民家がありません。成田から訪日外国人の方がいらっしやって都内に行くにしても船橋は大体中間地点で、泊まっていくには最適のベッドタウンになると思うんです。そういうのをホテルではなくて古民家だったりA i r b n b (※) というのもあったりして、そういうのを活用していったら、もっと農業という枠を超えて活発になるんじゃないかと思います。

※「A i r b n b (エアビーアンドビー)」

世界の宿泊施設・民宿を貸し出す人の Web サイト

○市長

会長はどうですか。

●會田

やはり同年代と知り合えるというのが一番大きいですね。

当たり前ですが入らないと知り合えない。ここに参加して、そこからさらに輪が広がっていくということもあるので、そういう面ではそれが一番楽しいかなと。

○市長

4 Hクラブは何歳までですか。

●會田

30歳までで、一番若いクラブ員で21歳です。

○市長

どのくらいのペースで集まりますか。

●豊田

大体、月に1回定例会があつて、あとは勉強会です。梨だったら梨で、時期ごと・仕事ごとに集まって、勤労市民センター借りていろいろやってみたり、復習とかしています。

○市長

定例会というのは何をやるんですか。

●會田

定例会は、その先、大体1カ月とかぐらいの予定、野菜の即売会の日程とか数量の調整とかがメインですね。

即売会は、大体1年間で決まっているイベントみたいなのが幾つかあって、あとアンデルセン公園を借りて即売会をすることもあります。

○市長

さっき、加納さんが若いときだからこそやりたいこと、やれることをやってみたいというような話がありました。齋藤さんはどうですか。

●齋藤（英）

圃場（※2）が今、わかりにくいところにあるので、もうちょっと人目につくところで、大勢でやっていったら「あの団体は何だろう。」とかになるのかなと思ったりしています。

※2「圃場（ほじょう）」

農作物を育てる場所

○市長

なるほど。でも、子供たちの関係もやっているんでしょう。

●會田

そうですね。幼稚園で芋掘り体験とか。

○市長

食育とかそういった体験とかは時間はかかるんだけど、凄く大事なことで、農業の理解者を大人になってからつくろうと思ってもなかなか難しい。

子供のころに親しんでもらってから大人になっていく子と親しんでいない子は全然違うような気がします。だから、そういう面白い体験がやれるといいなと思います。

●福田

多分、子供の野菜嫌いとかはそこですよ。

地元で新鮮な野菜を食べていけば、多分嫌いにならないだろうし、僕らは野菜嫌いな人はいない・・・いるか。

○市長

「こども未来会議室」(※3)で、農家でない中学生たちが「農水産品をもっとPRしたほうがいい。」と言うんです。船橋の野菜はおいしいというのを、もっとアピールしたほうがいいと必ず出るんです。それは多分、給食とかで食育をやっていて地元の野菜がでてきてプリントを配りながら「この野菜はここで作っていて、こういうふうにして工夫をしてやっている。」というのをみんなで勉強しながら食べたりしています。

それは、結構大きな意味を持っている気がするので、あんまり難しく考えないで何かやってくれるといいかなと思います。

### ※3 「こども未来会議室」

市長と中学生が船橋の将来について語り合う事業

(<http://www.city.funabashi.lg.jp/shisei/kouchou/001/index.html>)

#### ●福田

学校給食とコラボレーションできたら最高ですよ。梨やニンジンや小松菜など。

#### ○市長

当然、食材としては地域の八百屋さんを通して買っているので、市場で極力地元産を指定して買うので、使っています。

この前、給食の栄養士の人たちと給食展で会って話をしました。今年の給食展にいろいろな種類の野菜が増えたんです。やっぱり地元で入れられる野菜の種類が増えてきているというのを喜んでいましたね。あと「給食の際、子供たちが船橋の野菜を残さない。」と言っていました。その辺で地域の学校と栄養士さん、栄養士会とみんなで話をする機会があってもいいかもしれませんね。

#### ●福田

いろいろな人と出会えるのは歓迎です。

#### ○市長

4Hクラブの人数は多いんですか。

#### ●會田

東葛地域では一番人数が多いです。

#### ○市長

そうですね。

みんなの先輩方の人数の話をする、「そんなにいるんですか。」と驚かれる。多分、船橋はまだ圃場もあるし、消費地もあるから経営的にもいいのかもしれないですけど、どうですか。

●木村

周りの農家さんでもスーパーに卸したりしていますし、そこで買ってくれる人もいるので、市場出荷以外にもそうやって違うところで収入を得ているというはあるのかなと思います。消費者とも近い感じがしますね。

○市長

課題点を聞きたいんですが、みんな悩んでいることとか、こういうところはもうちょっと何とかならないのかなというのがありますか。

●福田

耕作放棄地の問題ですね。「耕作放棄地を持っているけど他人には貸さない。」みたいなケースもあるんです。そういう余っている土地があるんだったら有意義にどんどん有効活用が出来る循環みたいなものをつくれば船橋の農業は活力が出てくるかなと思っています。

○市長

耕作放棄地は、今、農業委員会がいろいろやっています。

自分が見てきたのは体験農園じゃないんだけど、東京の練馬では、借農地に結構な会費を払って野菜を作っています。

うちと違うのは駐車場があり、市民だけでなく市外からも呼び込むんです。船橋市の人で山梨あたりにとんでもない金を払って、畑をやりに行っている人を知っています。「向こうは富士山もきれいだから。」というのもあります。

付加価値として、船橋ぐらい地の利がいいと、呼び込める可能性は十分あると思っていますが、税金も払いかつ収益を上げるとなると初期投資が必要になってくるから、耕作放棄地で試してみたいですね。それを農業委員会に持ちかけたんだけどなかなか難しいところですよ。

もう一つは、さっき言ったようにまさしく手放さない人、やっぱり農家は先祖から預かっている土地を貸すと帰ってこなくなるとってしまう傾向にあるかもしれません。

いずれにしても、耕作放棄地はこれから船橋の農業を考える上では一番大きな課題であり、ある意味、生かしていきたいと思っているので、農業委員会の制度も変わるので市としてもしっかりとやりたいと思っています。田んぼの耕作放棄地は草だらけで道がなくなることもありますから。

「最近、こんなことで困っている。」ってこと他にもありますか。

●橋本

今は親が主体ですけど、今後、自分がやっていくことになると思う問題とか、いろいろできるのかなという不安は少しありますね。

○市長

昔は、家族とかで何とか出来たけど今はどうですか。

●福田

梨屋さんとか野菜屋さんでも、パートさんを雇ってる農家が増えていると思います。

○市長

人手の確保は結構大変だなと思っている人は？（挙手多数）

人手不足解消について、例えば援農ボランティアのやり方を工夫していく必要があるかもしれませんね。

他市の4Hクラブとの交流会はありますか。

●會田

あります。東葛地域は会長同士が年に3回集まって会議をして、年に1回は会員同士で交流会という形で行っています。他に県主催の講習会とかでも会う機会が多いです。

○市長

講習会というのはなんですか。

●豊田

市内生産者の要望として、千葉県の普及センターとかを通して野菜…もっと細かく、例えばニンジンについての専門の方を呼んでいただいています。

○市長

さっき若いからこそできるといった話がありましたが「こども食堂」は知っていますか。「こども食堂」は、地域の経済的に困っている子に対して「何曜日の何時からやるから食べにおいで。」みたいな感じで市内に十数か所あって、会費は少しだけもらうんだけど経営している人たちがボランティアです。この前、こども食堂の人と話をしましたが「市場などで、本当は食べられるけど品物として出すわけにいかないようなものを食材として提供してくれたら、大変助かる。」という話がありました。

例えば「こんな食材が残っているけど取りに来られますか？」といった関係でやっていったら無理はない気がしました。

●會田

できると思います。市場の規格に合わないものは廃棄になってしまうので。

○市長

そこで食べる子供たちは「これはどこどこで作ったんだよ。」「こんな野菜が入っているね。」とか、また結びついてくるんじゃないかな。

梨も雹（ひょう）が降ったせいで、黒くポチポチになってしまっ商品にならないことがあったけど、むいて食べれば大丈夫。

こども食堂の人にまた会うので、もしみんなに可能性があるなら「どういった形でやってくれると助かるんです。」という場を設けてもいい気はするんだけれど。

●加納

梨は時期が限られているので、野菜屋さんのほうがいいと思いますが、問題はありません。

○市長

この前、福祉の賀詞交歓会的时候、梨農家の方が「お礼を言われてびっくりした。」と言っていました。その人は毎年恩寵園（おんちょうえん）に寄付し

ているのだけど、「お金が無い中、季節のものを食べることが出来て、子供たちは本当に喜んでいます。」と、園長さんに言われたと。

會田会長、可能性があるのであれば何らかの機会でセッティングをさせてもらうということでもいいですかね。

●會田

はい。

●加納

欲しい人と私たちを結びつけるのは難しいですよ。どうすれば。

○市長

やはり直接話してもらうのが一番いいですね。その場をセッティングするのは行政が幾らでもやるので、そこから先はいろいろなニーズと、どういうものだったら負担なく提供できるということを実際に話してもらえればいいですかね。

そのときに今の子供たちの現状とかを聞いてもらえると、ふだん、気がつかない子供たちの悩みもわかることがあります。

●豊田

市長は4Hクラブや僕たちに対して、どんなイメージを持っていますか。

○市長

私も農家の生まれで次男です。実家では落花生などをやっていて、部活で帰ってきてからやったりトラクターに乗ったり、5月の連休というと田植え、9月の最初の日曜日は稲刈りといった感じでずっと過ごしてきた中で、農業を職業として選んで経営をしていくのは、若い人たちにとっては大変だろうなと思います。

でも一番思うのは、みんな楽しそうだから、それは凄くうれしいです。

こうやって同世代の人が一緒にやっているというのは一番いいですね。ぜひ頑張ってもらいたいなと思っています。

●豊田

楽しいですよ。婚活と話が結びついちゃうかもしれないですけど、船橋に住んでいる女性の方は農家の嫁についてどんなイメージがあるのかなと思っていて、市長のように、よく思ってくださいている方が多ければいいんですが。

うまく言えないけれど僕たちのことをクラブ員としても、個人としても知ってもらえる機会が増えればなと思っています。

4Hクラブの誰が野菜つくっていて、じゃあ、今度買いに行こうという人も増えてきたらうれしいなと思うし。

○市長

そうですね。

他のところでよく話すのは「今の農業後継者の若手は、昔と違って、完全に経営者だから面白いよ。」ということです。けれども、若い女性たちは、仕事のイメージが湧いているのかどうか。

●豊田

農家に来るのはあまり良いイメージがないかもしれないですけど実際はそんなことないです。「絶対に手伝ってくれ。」という家がすべてではないし良いイメージを持ってもらって、人気のある農業者になりたいです。

○市長

ふと思ったのですが、農家の嫁に来た、若い奥さん達の話聞く機会があると良いかもしれませんね。

婚活イベントのとき、いきなりバスに乗ってどこかに行くのではなくて、実際に若くして子どもを育てている人とフリートークしてもらって「農家のお嫁さんはどんな感じなんですか。」と聞ける機会をつくってからやると良いかもしれませんね。

やっぱり仕事をやっていると、なかなか出会う時間がないですよ。

●豊田

基本、嵐にならない限りオフはないですね。

仕事終わりに家にこもらずどこか遊びに行かないと出会いはないかもしれないですね。

○市長

梨も切れ目はないですか。

●齋藤（雄）

ないですね、意外に。冬は暇だと思われているんですけど、収穫が終わったら、肥料まいて剪定やってとかしていますので。

○市長

野菜は野菜で常に回していきますよね。

●會田

そうですね、収穫しながら、次の種をまいています。

○市長

長男の嫁って冠婚葬祭から、いろいろやっていくというイメージがあるから大変だけど、来ちゃえばそれなりなところもあるし。

鈴木さんは婿取りになるんですか。

●鈴木

はい。いつまで梨づくりをできるのかが毎日不安で、一緒に作業をやってくれる男性は嬉しいですけど、もし突然、地球温暖化とかいろいろな理由で梨だけじゃちょっとやっていけないというときに、ほかの業種で仕事ができるような技術を持った方がちょっといいかなと思っています。

○市長

そうですね。今度、バス婚活で濃溝の滝に行ったりいちご狩りに行ったりするんですね。

この前は、広報ふなばし（※4）で介護の関係の現場の人の特集をやったんだけど、農業後継者としての特集も1回やってみますか。農業の魅力というか、今まで産品をPRしていたけれど仕事そのものの魅力をPRしていく機会もつくりませんか。

こういう話をしているといろいろなことが生まれてくるので、ほかの団体とのいろいろな集まりとかでまたどんどん参加してもらって、お互いにコミュニケーションをとっていくと、また多分、新しいことが見つかると思います。さっきの「今だから出来る何かをやってみたい。」に繋がるけど、こんな

のどうって言うてくる人が必ずいるから、こういった形でつながりを持って発見してくれればと思います。

※4 広報ふなばし（平成29年1月1日号：4面）

[http://www.city.funabashi.lg.jp/shisei/kouhou/001/01/p049881\\_d/fil/2017\\_0101.pdf](http://www.city.funabashi.lg.jp/shisei/kouhou/001/01/p049881_d/fil/2017_0101.pdf)

●會田

ありがとうございます。さきほど市長がおっしゃったとおり、ゆっくりお話できて凄く良い機会だったと思います。

4Hクラブ自体が在籍の期間もそこまで長なくて役員も1年でかわってしまうので、なかなか全員で同じ方向を目指し続けるというのは凄く難しいと思います。

その中でもやりたい人間というか、志が同じ人間で集まってできることをやっていくというのが4Hらしいのかなというふうに思います。

まとまりませんが今日は本当にありがとうございました。

○市長

今日は楽しかったです。

また別の機会に急に思いついたことでもいいので言ってもらえればいいし、あとは何かやっているときに「役所がもうちょっと何とかしてくれれば、良くなるな。」ということがあれば、遠慮なくそれも言ってもらえればと思います。ということで、またこれからも頑張ってください。

○一同

ありがとうございました。